

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	訪問型家庭支援事業			事業番号	09-106
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	教育部学校教育担当	大高 敏夫	教育指導課教育センター	本多 由佳里	

計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち	
		基本政策	3	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり	
		施策展開の方向	1	子どもの生きる力をはぐくむまちをつくる	
		施策	9	きめ細やかな教育の推進	
予算事業名	訪問型家庭支援事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成28年度 ~		終了年度	
関連法令等	文部科学省スクールソーシャルワーカー活用事業実施要領				
国・県の計画等			計画期間		
関連個別計画			計画期間		
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	児童生徒のいじめ、不登校、暴力行為等の状況や背景には、家庭、友人関係、地域、学校等の児童生徒が置かれている環境の問題が複雑に絡み合っているものと考えられる。児童生徒が置かれている様々な環境に着目して問題解決を図るためのコーディネーター的な存在が、教育現場において求められている。				
目的 (何をどうしたいのか)	児童生徒が安心して学校教育を受けることができるよう、教育の分野に加え社会福祉に関する専門性をもったスクールソーシャルワーカーによる支援を行う。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市内公立小中学校に在籍する児童生徒の保護者及び家庭。				
事業内容 (手段、手法など)	・児童生徒が安心して学校教育が受けられるよう、家庭と福祉をつなぐスクールソーシャルワーカー(SSW)による支援を行います。 ・必要に応じて民生委員児童委員などの地域の人材も活用します。 ・スクールソーシャルワーカーに適切な指導・援助ができるスーパーバイザーを配置します。				
事業行程	項目	年度			
		28年度	29年度		
	スクールソーシャルワーカーの配置	4日勤務者を1人配置	継続配置		
	スーパーバイザーの配置	1回2時間×4回	継続配置		
目 標	【指標名】	【現状】	年度		
			28年度	29年度	
	スクールソーシャルワーカーの訪問回数	-	220回	220回	



事業実施(Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)			
実施方法 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> すべて直接実施 <input type="radio"/> 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容
実施結果	項目	年度	
		28年度	29年度
	スクールソーシャルワーカーの配置	4日勤務者を1人配置	
	スーパーバイザーの配置	1回2時間×3回	
実施した取組の内容	市費によるSSWの配置、派遣 市費SSWに対するスーパーバイザーによる指導、支援		
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度
			28年度
	スクールソーシャルワーカーの訪問回数	-	223回
			29年度

コスト	年度	28年度 実績				29年度 実績			
	事業費合計 (a)		3,385	千円			千円		
	内訳	国県支出金 ①	0	千円			千円		
		地方債 ②	0	千円			千円		
		その他特財 ③	0	千円			千円		
		一般財源 (a)-①-②-③	3,385	千円			0	千円	
	国県支出金の内容								
	その他特財の内容	受益者負担	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		前回の改定時期				
		その他							
	人件費	正規職員	0.13	人	1,125	千円		人	千円
		その他の職員	0.78	人	1,895	千円		人	千円
		人件費合計 (b)	0.91	人	3,020	千円		人	千円
	トータルコスト (a)+(b)		6,405		千円				千円
	単位当たりコスト	対象数	定義	活動総回数		単位			
			対象数	870	回				
総事業費／対象数		7,362	円					円	

評価 (Check)へ

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	各ケースについて情報把握に努めると共に、学校や他機関との連絡調整を行い、それぞれの役割を明確にした上で、支援を行ってきた。児童生徒を取り巻く環境は複雑化しており、主訴改善までに時間等を要するケースが多い。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	B	他都市事業内容等	学校からの依頼に対し、学校との協働により適切な支援を行うことができていない。配置人数が少ないため、必要な時にすぐに対応することが難しいことが課題である。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	学校だけでは解決が難しい不登校、問題行動等の事案について、福祉的視点からのアプローチが可能となり、本人や学校支援に大きく寄与している。SSWにつながるケースは、学校だけの対応では難しいケースであるため、早期発見・早期対応を図る必要がある。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	各ケースに対して必要な支援を行うことができていない。引き続き、各校との連携を強化し、問題の早期発見・早期対応を進める必要がある。

↓
取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	SSWの役割を各校に周知することができてきている。引き続き、学校との連携を深め、早期発見・早期対応を行い、主訴改善を図ることが大切である。また、学校が必要な時にすぐに対応できる体制づくりを進める必要がある。
次年度取組方針		学校の要望に基づき、計画的に学校巡回を行い、情報共有を図るなどして、問題の早期発見・早期対応に努める。引き続き、教育相談事業や他課との連携を図り、切れ目ない支援体制における役割を果たしていく。		
所管部長による総評		スクールソーシャルワーカーを市費で配置することで、問題を抱える児童生徒に対して、学校における教育的視点からのアプローチに加え、福祉的視点からのアプローチが可能となり、児童生徒の置かれている環境に働きかける支援を行うことができていない。個別に支援を必要とする児童生徒に対するトータルな支援体制の構築を進める上でも、重要な役割を担っている。		